



# サーバス九州

日本サーバス九州支部会報

No.150 2012年8月10日

昨日は長崎は原爆忌。福島の原因事故と合わせ、あらためて被爆の問題、核のゴミの問題を考えさせられています。それにしても、暑い日々が続いています。暦の上ではすでに「立秋」だというのに。ご自愛くださいませ。

会報150号('12,8月号)をお届けします。内容は以下の通りです。

- 1 秋例会案内
- 2 トラベリング報告2編
- 3 サーバス九州会員情報
- 4 サーバス九州から
- 5 サーバス九州連絡先等

## 1.'12 秋例会案内

昨年(2011年)、国東半島で例会を持ち、好評でしたので、「今年も国東を回ろう」、という計画です。今回は昨年訪れなかったところを中心に訪問します。国東でボランティアガイドをされているサーバス会員が中心になって企画・ガイドをしていただいています。ご都合をつけてぜひ、ご参加ください。一緒に仏の里・国東を回しましょう！

今回は2日目にはトレッキングコースと神社仏閣参拝コースに分かれたプログラムも用意されています。

期日： 11月17日～18日(土、日)

集合場所と時間：国東市役所 安岐総合支所 12:00

昼食は500円位のお弁当。または見学地近くの食堂で団子汁。

コース： 1日目 ①熊野磨崖仏 ②富貴寺 ③川中不動、天念寺または長安寺、高山寺

2日目 Aトレッキングコース(中山仙峡) B神社仏閣参拝コース

旧千灯寺跡と五輪塔群はA・B一緒に行く予定

ホテル：「いこいの村国東」(昨年のサイクリングセンターの近くのホテルです)

4人部屋を8部屋 抑えてあります

費用： 一人11,000円(1日目弁当、途中交通費、拝観料、夕食、宿泊、朝食を含みます)

申し込み：一次締め切り9月末 二次10月末 以下の内容を緒方までご連絡ください。

①参加者名 ②集合場所までの交通手段 ③1日目昼食の要・不要 ④2日目コースは上記AかBか

\* 途中キャンセル・変更等があっても構いませんので、参加・不参加の予定を早めにお知らせいただくと担当者は、ホテル予約・車の手配・昼食の注文等で助かります。よろしく願いいたします。

## 2. サーバス旅行報告 2 編

### <その1> ドイツ旅行

佐賀 S, H, Y 会員

8日間のドイツ サーバス旅から帰ってきました。(6月27日～7月4日)  
ミュンヘン、ローゼンハイム、マンハイム、ハイデルベルグをまわってきました。  
ジャーマンレイルパス5日間を買って、ドイツのICEに乗ることと、ライン川下りを楽しみに  
行きました。

1日目 福岡～北京～ハイデルベルグへ

2日目 ICEに乗ってミュンヘンへ、時速298キロ出てました。景色を見ているとあまりの  
速さに頭が痛くなる。

ミュンヘンは、ビール町の町、カフェや公園で皆さんビールを飲んでいる。

ガイドブックに載っていたコースで町を歩く、レジデンスはすばらしかったが、疲れがどっと  
出る。(反省：到着した日は、観光せずにホストの家に直行がいい)

ローゼンハイムのサーバス宅

奥さんはジャーナリスト、ご主人は写真家(その日は仕事で外国へ)

夕食をテラスで食べながら、彼女のジャーナリストらしいきびきびした質問に、もたもた答  
える。部屋がものすごくすっきりしてセンスのよさが伺われた。ガーデニングと町並みがきれい。

3日目、ホストは朝早くから仕事へ、私たち3人は、準備された豪華な朝食をゆったりと食べ  
る。ドイツパン最高!! チーズも、ジャムも、ハムも、フルーツもほんとにおいしかった。

朝は、雷、大雨だったが10時には快晴に!! もらった地図を頼りに駅まで徒歩。列車と船  
でキーム湖へ

ベルサイユ宮殿に似たお城を見学、日本語の説明書があったのでラッキー!!

夜は、ホストの知り合いのギリシャ料理れすとらんへその後、ホストがサルサを踊りに行く  
というのでついて行く。ものすごい田舎にパブとダンス会場があり、村の人たちが上手にサルサ  
を踊っていた。Sさんも飛び入りで踊る。

4日目、つぎのサーバス宅へ

ハイデルベルグ駅で待ち合わせ。列車を降りたらその場から動くな。日本人3人だからすぐわ  
かるからということだったが本当に、降りた目の前に、二人がニコニコして立って待っていた。  
びっくり!!

「ハイデルベルグ観光は明後日にして、まず、家に来て休みなさい」ということで、マンハイ  
ムの自宅へ。

おながが減っただろうと、いそいでスープやパンを準備してくれ、戸外の大きな木の下で頂く。

ドイツでどんなことを経験したいか?と聞かれたので、学校を訪ねたい。人の集まる公民館み  
たいなところで触れ合いたい。田舎の暮らしを見たい。小さなコンサートに行きたい。ハイデ  
ルベルグに行きたい。と、しどろもどろに答えたら、どうにか通じていたようで、まさにそのす  
べてを計画して実現してくれました。

行動力と、幅広い人脈があるからこそ出来たことでしょう。親切で優しく、ユーモアに富んだ  
人達で、ドイツ人の暖かさに感激しました。

人をもてなすことが自分たちの楽しみとって朝から晩まで付き合ってくれました。

感謝の気持ちを言いたいけどなかなか旨く言えないといったら、ドイツ語では、ダンケの一言  
で十分だよと言われました。

5日目、6日目、7日目

友人の庭で行われた持ち寄りパーティに参加。ワイン畑の広がる小さな村にあるホストの別荘  
へ行き野山の散歩。

ホストがボランティアで行っている小学校と奥さんが演劇を教えているマンハイム大学見学。  
マンハイムの音楽学校で学ぶ生徒たちのコンサートに行く。

日本の夜市みたいなフェスティバルに行き ドナウ川を見る。

ハイデルブルグでは奥さんが学生の時住んでいた下宿をみたり日本の観光旅行ではあまり行か  
ないところを案内してもらった。また、食事はご主人の手作りをいろいろ頂いた。

サーバス会員になったのは、いろいろな国の人とのコミュニケーションが大好きだから、ということでしたが、つたない私たちの英語に耳を傾けてしっかり聞いてくれました。お互いに気持ちを通じたみたいでした。

## 8日目 帰国

本当に、サーバスならではの貴重な経験が出来ました。今でも、すぐにもう一回会いに行きたいと思うほど魅力のあるすばらしいドイツの人達でした。残念ながら、ライン川下りは出来ませんでした。とても実のあるいい旅が出来ました。

以上報告します。

## <その2> アルザストレックミートとイギリスの旅 長崎 O会員

### 1 ヨーロッパトレック例会参加

福岡のT会員の誘いを受けて、同じく福岡のT会員、長崎のY会員とともにヨーロッパ（主としてフランス・スイス・イタリア・ドイツ）のサーバス会員たちが行っている Pathway Together（一緒にトレッキングを行いながら交流を深める）に参加してきました。この会の世話はスイス・イタリア・フランスの会員が持ち回りで行っていて、今回はフランスの当番でした。

場所はドイツとの国境近くのアルザス地方。ここは時の権力者たちによって、国境の線引きが変わり、ある時はドイツ領・ある時はフランス領にさせられてきた歴史を持つ地方です。参加者は80名程度。内容はハイキングコースから本格的なトレッキングコースまであります。私とYさんはイージーコースを選び、アルザスのブドウ畑の中や中世の趣を残す小さな村々を参加者とおしゃべりをしながら楽しく歩いてきました。参加者は上記4か国の会員以外にトルコ、ベルギー、フィンランド、日本等からの参加者もあり、みなさんととてもフレンドリーで楽しい会でした。「見知らぬ人」が「サーバス」というだけで、たちまち「フレンド」になり、意気投合しあっていくのですから不思議です。

### 2 「知り合い」とぼったり

2年前、東アジア国際会議が台湾で開催されましたが、その参加の折、台湾をサーバス旅行中だった元英語教師のMs ミリアム・ミシュール（フランス領・リーユニオン在住）と部屋をシェアしましたが、その彼女とぼったり出会いました。彼女が住んでいるリーユニオンからは飛行機で12時間ぐらいかかるのだそうです。自宅では家の前の海岸で毎朝シュノーケリングをするのが日課だという彼女は小柄ですがとても元気で、魅力的な女性です。そのうち、みなさんのところにもステイ依頼が来るかもしれません。

ぜひ、日本に行きたい。九州にも行く。と言っていましたから。

### 3 「ヒッチハイク」初体験

2日間異なったコースのウォーキングに参加しましたが、その2日目のことです。おしゃべりの中でヒッチハイクが話題になりました。「体験したことがない」という私とYさんに、「ぜひ、体験してみたらいい」、ということで、宿舎のある隣町まで、それぞれ、二人ずつに分かれてヒッチハイクを試みることにしました。私とペアになってくれたジャクリーンが車の通る歩道で、親指を立てて1~2分待つと、女性の運転する車がとまりました。ジャクリーンの交渉ですぐにOK。彼女は自分の目的地とはちょっと離れているけど、回り道してくれるそうです。

宿に戻ると、Yさんがペアになってくれたモニカと女性ドライバーらしい人と話をしているのが見えます。彼女たちを乗せてきてくれたドライバーでした。わざわざ宿まで送ってきてくれたのだそうです。

「見ず知らずの人に回り道までして、よく親切にしてくれるよね。すごいね〜」と二人で感激。これで、だから、日本を訪れたトラベラーがいつも簡単に「ヒッチハイクでいくからいい」というのだなと納得しました。ドライバーもヒッチハイカーとの会話を楽しむ文化があるのでしょうね。おもしろいなと思いました。

### 4 「ねがい」の実現

もうかれこれ30年ほど前になるのでしょうか。当時13歳だった娘と二人でヨーロッパをサーバス旅行しようとしていたときのことです。我が家を訪れたトラベラーがライン下りをするなら、ぜひ、ストラスブールも訪問地に加えた方がいいとアドバイスくれました。そのお勧めに従って急遽ストラスブールを追加し、すっかり旧市街の木組みの家に魅了されてしまいました。その時私たちを受け入れてくれたホストはせっかくだからとアルザスの町をドライブしてくれましたが、その時は時間がなく、す〜と通り過ぎるだけでしたので、いつか機会があったらゆっくりこ

こを歩いてみたい、とずっと思っていました。今回はそのアルザスを自分の足で歩き、自然を堪能できて満足でした。また、歩きに行ってもいいな、と思いましたが、日本では土の上を歩きたいと思っても田舎の山道でさえコンクリート舗装されてしまっているところがほとんどなのですが、あちらは「Pathway」や「Walk」として森や林の中にウォーキング用の道が確保され、歩くのが非常に快適なのです。マップも用意されていますし、標識も整備されています。

Walking が身近なスポーツとして市民権を得ていることを感じさせてくれました。

## 5 イギリスではナローボートに

サーバス旅行ではありませんが、アルザスの後はイギリスにわたり、T 会員お勧めのナローボート（チャンネルボート）を初体験しました。幅 2 メートル、長さ 10 メートルほどの長いボートをレンタルして、キャンピングカーならぬキャンピングボートでの旅行です。イギリス中を縦横にめぐっている運河（Railway に対して Waterway という）を航行していくのです。鶴さんはボーター歴 3 回目のベテランですが、残り 3 人はずぶのシロート。手ほどきを受けながらあちこちにごぶついたり、スタックさせたりしながら 1 週間のボーター生活を体験しました。

いつも何かに追い回されているような日々を送っている私には異次元のような 1 週間で、貴重な体験でした。

## 6 マンチェスターでサーバス宅に

訪英前にサーバス宅にステイ依頼のメールを出していましたが、返事がもらえないまま出かけ、途中でいくつかのホストにホテルから電話で受け入れを打診してみました。幸いにマンチェスターのホストから OK をいただきましたので、Y さんと訪問してきました。

定年退職後、悠々自適な生活を楽しんでいるステファンとイボンヌ夫妻、わずか 1 日の滞在でしたが、料理やおしゃべりを楽しみました。

このお宅では食事当番は夫婦で 1 週間交代制。私たちが行ったときは奥さんのイボンヌが当番でした。スープとサラダ、ラムと野菜のグラミーソース煮込み、それにデザートがプディング。どれもおいしくいただきました。元スエーデン大使館に勤めていたというイボンヌは椅子の補修が趣味。いろいろな椅子の座部分を布やレザーで張り替えていくのです。格調はあるが古くなってしまった椅子を美しい調度品に変身させていく技はすごいです。

後でイボンヌからメールが来て、日本のみなさんにぜひ、我が家にステイしてくださるようにお伝えください。来客用にいつも 2 部屋準備してありますよ。と書かれていました。みなさんいかがでしょうか。

## 3. サーバス九州会員情報

佐賀に仲間が増えました！

長崎でも問い合わせがきています。新しい仲間が増えるのはうれしいですね。

サーバス九州現況：会員数 58（家族）

<内訳 大分 15、熊本 6、佐賀 5、長崎 7、福岡 12、宮崎 13>

## 4. サーバス九州から 2点

1 別便でもお知らせいたしましたが、日本サーバス 50 周年記念誌と CD が発行されました。すでにお手元に届き、ご覧いただいた方もあると思いますが、書籍の方はかなり重量感があります。配布の方は各県の代表者の方にお骨折りいただいて県内の会員各位に折を見てお届けしていただくようお願いをしました。みなさま快く引き受けてくださり、感謝しています。

九州支部からもみなさまの旅行記や受け入れ体験記がたくさん収録されています。編集に関わってくださった中崎さんのご苦勞に感謝いたします。

2 サーバス旅行をされた方、旅行者を受け入れてくださった方、ぜひ、報告のメールまたはフェイスブックをお願いいたします。会報で紹介していきます。

## 5. サーバス九州連絡先等

発行日:2012年8月10日 (150号)

発行者:サーバス九州支部長

**【会費、認定料等の送金】**  
支部長にお問い合わせください。